

第2段

法人で活躍しているアクティブシニアに お話を聞きました

仕事の内容や心がけていること、職場の雰囲気などを聞きました。

工藤真二さん (70代) グループホーム 嬉楽家 勤続年数 18年



嬉しいことは、利用者さんの笑顔。利用者さんは、人生の先輩です。プライドも尊厳もあります。その年齢になるまで、働き、子供を育てた人生をお持ちです。その方の性格、暮らし方は、個性です。私たちの都合でルールにはめてはダメなんだと考えています。いかに、自然に笑顔でいて頂けるかを考えて、自分の人生で経験した引き出しをフルに活用して、仕事をしています。ありがたい事に、利用者さんが居るからこそ、自分が活かされている、求められているからこそ、居場所を感じています。

上司に教えて頂いた言葉がずっと胸にあります。自分たちが利用者さんと家族の間に立つことで、葛藤を交えながら怒っていた家族が、今度は利用者さんと笑顔で会える時がきます。大切なお母さん、お父さんと笑って会える。自分たちが関わる事で、家族の方達も優しくなれる。この言葉に本当に引き込まれたのを今でも感じます。私たちも、利用者さんが笑顔で居てくれるように努力していますが、やっぱり家族が遊びにきた時の満面の笑みに勝るものはないですね。福祉は、奥が深くやりがいを感じています。

竹下かおるさん (60代) グループホーム 嬉楽家 勤続年数 17年



仕事は、主に9時から18時です。内容は日中行う洗濯、掃除、ご飯作り、その間にトイレ誘導など)を行っています。初め、誘って頂いた時は、おばあさんや、おじいさんと一緒にご飯を作ったり、掃除をしたり、洗濯を手伝っていただけませんか?と言うお話だったので、気軽に始めましたが、気づけば17年目。働き方は、月に15日。プライベートと仕事の時間が5対5の比重がとても自分の働き方にあっていると思います。これ以上、働く時間が減れば、利用者さんと過ごす時間も途切れ途切れになり、リアルタイムに知る出来事が減ってしまいます。時間のつながりを保てる今の働き方が気に入っています。

職場の雰囲気はとても良いです。働きやすく、人間関係も良好です。もともと、一人でいるより誰かという方が楽しい性格もあり、働きに通うのが楽しみです。今年はコロナ禍もあり、プライベートで楽しんでいた主人との旅行や食事、友人とのランチなどの機会も減り、コミュニケーションもLINE中心になりました。そのこともあり、職場の交流が私にとってとても大切なものになっています。

施設紹介

ぼちぼち長屋ってこんなところ!

ぼちぼち長屋は高齢者中心の2階建て共同住宅です。1階は介護が必要な高齢者が13名暮らしており、常駐の介護職員が入居者への支援をさせていただきます。2階には3名の会社員と1組の家族が暮らしています。若い人と高齢者が同じ建物の中で生活することで、多世代交流が生まれます。混ざって暮らすことで

生じる、煩わしさや、賑やかさがぼちぼち長屋にはあります。感染予防に取り組みながら入居者に喜んでいただけるような行事も定期的に行っています。見学も随時対応させていただきますので、ぜひお気軽にお問い合わせ下さい。

住所：480-1135 愛知県長久手市下山50-1 TEL：0561-61-4580



職員の声



山羊が繋いだ、たいようの杜との縁

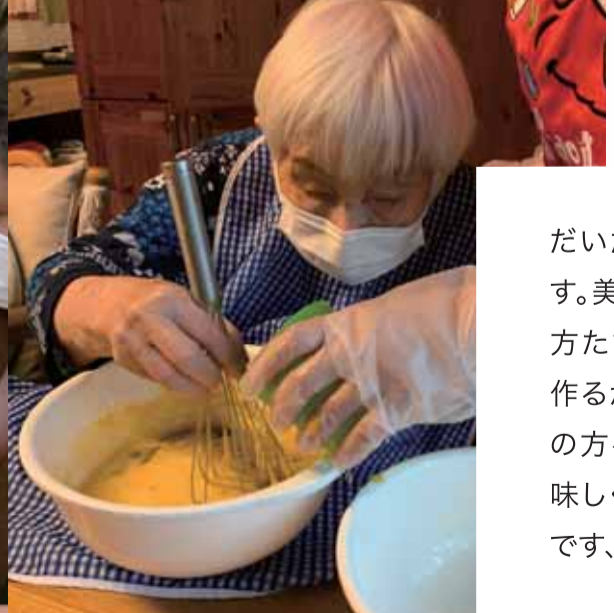
ある日、子どもと猪高緑地で遊んだ帰りに、ふら〜と歩いて、行きついた先で出会った2匹の山羊、小桜と小梅。その奥に見える大きな建物は何だろう?と思いながら、子どもと山羊を見てから帰路へ。その後、そろそろ仕事を探そうかなと、求人雑誌を見ていると、偶然出会った山羊のところが愛知たいようの杜だと知り、「こういうところで働きたい!」と思い就職することができました。

行事を少しご紹介!

流しそうめん

特別養護老人ホーム 愛知たいようの杜

緑に囲まれたテラスを利用して、流しそうめんを行いました。竹をしっかりと組み、全長約20メートルの流水コースを作成、他者との距離をしっかりと保ちながら、流れてくるそうめんを食べていただきました。「こうやって食べると美味しいね」「たまにはこういうのもいいわね」と入居者の方々の笑顔が溢れました。



パウンドケーキ作り

小規模特別養護老人ホーム だいたいの村

だいたいの村のおやつ作りは生地作りから始まります。美味しくなるように願いをかけながら、入居者の方たちが一生懸命、混ぜて下さいました。「初めて作るから上手くできるかしら…」と言われた入居者の方々も大活躍されました。ですから、おやつが美味しくないはずがありません。次はどら焼きに挑戦です、乞うご期待。